

ハッジ 巡礼 (半)

:

明:ハガルと彼女の息子イシュマエル、そして2人のハッジ 礼における役割について。

目:[事 崇 行 とその 践 践の五ヶ条」](#)とその他の崇 行

より: サウ ド アル=ハジャリ

日 7 Jan 2014

集日 27 Jan 2014

カアバは特 な 所です。私たちは、アブラハムと彼の息子の信仰と勇 を 念します。私たちはまた、ハガルの母 としての 情も同 に祝います。母 の とは 私 欲であり、人の としては最も高い段 のものです。ハガルはこの 情に して素晴らしい例を示しました。彼女は この 情を、神への るぎない信 と び付けたのです。アブラハムは妻である彼女とまだ乳 だったイシュマエルを、それ以前はカアバだった に れて行くよう命じられました。この全く人 も水源もない荒野において、彼は2人を置き去りにし、少しのナツメヤシの と、少しの み水の入った小さな袋を残して立ち去りました。ハガルは彼の からこう言いました。「アブラハムよ! あなたは私たちを残してどこへ行くのですか? この 谷には私たちの相手をしてくれる人たちもいないですし、何一つありません! 」

彼女は何度も り返しましたが、彼は ろを振り返りませんでした。そして彼女はこう ね ました。「これは、アッラ があなたに命じられたことなのですか? 」

彼は言いました。「そうだ。」

彼女は言いました。「そうなのであれば、かれは私たちを かにはされないでしょう。」

これは、何という神への信 感でしょうか!

彼らは、全能なる神による供 があることを 信していました。神はこの上なく供 される御方なのです。イシュマエルの母ハガルは、イシュマエルに乳を与え、手持ちの水をみました。それがなくなると彼女の喉は き、イシュマエルも同 に きから激しく泣き出しました。彼女はそれを るのに忍びなくなり、そこから最も近いサファ の丘に登ってかがいないか探しましたが、 一人として つけることは出来ませんでした。そしてサファ を下りると、彼女は衣服をまくりあげ、焦燥に られて 谷を走りぬけ、マルワの丘にたどり着いて りを 回しましたが も つけることが出来ませんでした。彼女はそれ（サファ とマルワ を け けること）を7回、 り返しました。神はこうした 私 欲の母 の 情を され、かれの 殿への巡礼者たちが同じことをするよう、定めたのです。

彼女が（最 に）マルワに着くと、声が こえてきたため、それに耳を澄ませました。彼女は再び、声を耳にしました。彼女はこう言いました。「おお（あなたが であれ）、あなたは私にあなたの声を かせました。私を助けてくれる何かをお持ちではないでしょうか？」すると、彼女はザムザムの 所で天使を いだしました。天使は踵で土を掘り、そこからは水が溢れ出て来たのです。彼女はその周りを手で掘って水たまりを作りました。そして革袋に水を汲み始めました。それは彼女が汲み取った も き けました。神によるこの素晴らしい みは、 在も未だに止まることなく いています。数百万人が 年、この 水 を み けていますが、この泉は依然として枯れることはないのです。マッカは 特 な 所です。

アブラハムの家族による、2つの 念すべき出来事を祝い、私たちはアッラ の御意は、最も善きことをもたらすことを思い起こします。最 的に、アブラハムの家族には最善のことがもたらされました。私たちも神にすべてを委ね、かれを信 するのであれば、同のことがもたらされるのです。私たちは神から来て、そして神へと るのですから。

カアバは特 な 所です。皆が一 に、控えめな白い衣服をまとった3百万人もの同胞と ごすのは 倒的なことです。最も地位の高い王から、最も地位の低い 者まで、同じ格好をします。彼らは肩を べて立ち、道を き、お互いに平和の挨拶を交わすのです。あらゆる 人 は平等に混ぜ合わさります。 、白、黄、茶色の人々は、 してやまない神の前にて 和

します。神の前に、それを邪魔する要素は何もありません。そこでは、神こそが重要なのです。 を上げ、目の前にキブラを るのは素晴らしいことです。我々は 日5回、 カアバを向いて礼 しますが、彼らはその威 と 光を目の前にするのです。彼らは故 に ったかのような高 感を感じながら、こう口を合わせます。「ラッバイカッラ フンマ ラッバイク ラッバイカ ラ シャリ カ ラカ ラッバイク (せ参じました。アッラ よ、私は せ参じました。あなたに同位者はありません。)」

私たちは口を合わせて公言しつつ到着し、 カアバを中心に周回します。地上における柱であるその は、私たちの人生で神を中心にするのを思い起こさせます。そこで私たちは、神を私たちの人生の中心に据え、私たちの存在の中心とすることを思い起こさせられるのです。

アッラ よ、あなたの家を れるという祝福を された、私たちのムスリム同胞のハッジをお受け入れください。私たちにもいつの日か、あなたを れるという祝福をお授けください。アッラ よ、あなた以外に 、崇 、そして身を委ねるに相 しい御方はいません。あなたを し、崇 し、身を委ね、あなたの御意に うことが出来るようお しくください。ア ミン!

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1928>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。